

令和2年度

奈良県立高円高等学校 学校評価計画表

教育目標		普通科と芸術系学科からなる学校としての特性を生かし、感性を育み、心豊かな生徒の育成を目指す。				総合評価
運営方針		安全で安心な学習環境のもと、基本的な生活習慣の確立と学力の定着・向上を図り、生徒一人一人の個性を尊重し伸ばす指導をする。				
		生徒の心身の健康に留意し、きめ細やかな指導のもと、生徒の自主的・主体的活動を推進し、自立心や社会性を育成する指導をする。				
		普通科と芸術系学科からなる学校としての特性を生かし、教職員が一体となって学校運営を進め、魅力と活力ある学校づくりをする。				
		これまでに培われた伝統文化を受け継ぐことができる高円芸術高等学校(次年度開校)を創造する。				
令和元年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標		
基礎学力の向上とともに、自主的な学習姿勢の確立を目指す「下学上達」の取組は学力の向上と定着に一定の成果があり、より良い内容の吟味を行っていく。 授業をより能動的なものにするため、「主体的・対話的で深い学び」を意識し、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業展開がなされた。 担任と進路指導部が連携し、生徒一人一人の進路目標を理解して丁寧な指導を行い、生徒の学びたい分野や将来の職業を見据えた進路指導ができていた。 高円芸術高校(次年度開校)の学校づくりを進めてきた。より魅力ある学校づくりに邁進する。		学力の定着・向上と主体的な進路実現		「わかる」授業・「主体的に取り組む」授業を進め、学力の定着・向上を図り、思考力・判断力・表現力の育成に努める。キャリア教育を充実させ、生徒自らが主体的に進路選択できる力を身につける。		
		基本的な生活習慣の確立と社会性の育成		生徒一人一人の理解に努め、はじめある生活態度と他者を思いやる心を育成する。生徒の自主的・自発的な活動を推進し、社会の一員としての自覚を深めさせる。		
		心身の健康と体力の保持増進		教科指導や特別活動、保健・食育指導等を通して、体力の向上を図り、健康への意識を高める。教育活動全体を通して安定した豊かな心、強い心を育てる。		
		芸術教育の推進と交流活動の展開及び発信		芸術教育の充実発展を図り、魅力と特色ある学校づくりを行う。交流活動を通して地域や保護者、関係機関との連携を深め、積極的な情報発信をする。		
		高円芸術高等学校開校準備と広報		次年度に開校する高円芸術高等学校の様々な環境を整え、魅力と特色ある学校づくりを行うとともに、広報する。		
		学校業務工夫と改善及び教職員の健康維持を意識した働き方の推進		会議等の精選と校務支援システムを活用することにより時間短縮等を行い、個々の教職員が業務改善を行いながら、勤務時間及び健康を維持する働き方の改善に取り組む。		
		評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)
学習活動	生徒の基礎学力向上とともに、自主的な学習姿勢の向上を図る。新学習指導要領に示される学習の指導法及び評価について調査研究を進める。	・「下学上達」に積極的に取り組ませる。今年度、自学自習を中心とする教材を使用し、振り返りシートの活用で生徒自身が課題を見つける内容になっている。学年からの意見を整理し、生徒の取り組みに変化があればB、それに基づいた成果があればA。				
		・「主体的・対話的で深い学び」の授業展開について、調査・研究を各学科・教科とともに進める。予習復習の習慣付けを重点的に行い、授業をより能動的なものにする。各教科で導入が進めばB。その結果、有効な改善ができればA。				
		・観点別学習状況評価を各学科・教科とともに進める。次年度に向けて、職員間に一定の意思統一ができればB。何らかの形での試行ができればA。				
学校行事等の円滑化と、儀式での集中力の向上を図る。		・各分掌・学年・学科・分教室との連携や調整を図り、学校行事の目的を果たせるよう円滑な運営を目指す。				
		・式典の意義を考えさせるとともに、はじめをつけさせる指導を通して集中力を長時間維持させる。				

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
生活指導	基本的な生活習慣を確立する。	・日常生活の中で自然にきちんと挨拶ができるよう習慣付けをする。また正しい言葉遣いの指導に積極的に取り組む。朝の挨拶運動や、様々な場面で挨拶することの大切さについて伝えていく。				
		・特別な事情のない遅刻をなくすことを目指し、ともすれば習慣化してしまう遅刻を繰り返さない取組をする。目標は全校生徒が8時半までに昇降口を通過していること。				
	日常生活におけるルールを徹底させ、マナー・モラル向上に努める。	・登校時間における公共交通機関でのマナー・モラルの周知徹底を図る。また、交通ルールに対する考えをしっかりともち、事故に遭わない遭わせない安全意識を徹底させる。 ・定期的に登下校の見回りを行うとともに、講演会などを通じて安全意識をより一層高める。				
進路指導	生徒の主体的な進路実現を支援する。	・生徒一人ひとりの可能性を最大限に伸ばし、生徒が自分の能力・適性に合った進路の選択をし、希望が実現されるようにする。 ・進路HR、ガイダンス、集会などを通じて進路を真剣に考える姿勢を育む。 ・模試や各種テスト・検定等の受験を促し、学力の向上、学習意欲の醸成を図る。				
	キャリア教育の構築し、推進する。	・生徒が正しい職業観をもち、自らの在り方生き方を考え、社会の変化に対応して主体的に判断し行動できる有為な社会人となるよう支える。 ・生徒が自身のキャリアデザインを描くためのガイダンスや講演会等を開催し、内容的な充実も図っていく。 ・体験学習やインターンシップ等への参加を促し、望ましい勤労観や職業観の育成を図る。				
	進路情報の収集し、情報提供を強化する。	・進路決定に資する冊子・資料、イベント・OC情報等について適時提供を図る。 ・今年度より導入される大学入学共通テスト(新テスト)についての情報提供に努める。 ・「進路ガイドブック」の充実や「進路インフォメーション」の発行等による生徒及び保護者への啓発に努める。 ・保護者に向けても進路講演会や大学・学校等の見学会を催し、進路への理解を深めていただく。				

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
特別活動	生徒の自主的、主体的な活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会主催の行事等で、生徒会が先導し高等養護学校高円分教室生徒とともに、生徒が積極的に関われる活動を目指し企画立案する。 ・生徒会が中心となって美化活動、ボランティア活動、挨拶運動、募金活動などへの参加を奨励・推進する。 ・他校・地域などとも積極的に交流し、生徒会の活躍の場を広げる。 				
	委員会活動や部活動の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術学科の様々な活動や委員会活動を生徒会が中心となって全校生徒に配信する。 ・学年クラスを越えたグループでのフットサル大会や文化祭への参加を強く呼びかける。 ・各部の活動の更なる活性化を図るため、生徒会としての範囲内で施設や設備の充実を図る。 				
	図書館利用・運営の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の図書館利用や読書活動に積極的に働きかける。またクラス図書委員の活動の幅を広くし、新たな角度からの図書館利用を図る。 ・課題研究や資料参照など、教科での図書館利用を一層活性化させるために各教科との連携を深める。 ・次年度の新入生への図書館オリエンテーションの実施方法や企画について検討する。 				
環境 安全教育	校内、校外美化の徹底と防災、防火に関する意識啓発を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・校内及び校外美化活動を各学期に1回実施する。 ・避難訓練、消火訓練(消火栓、消火器)、救助袋降下訓練、シェイクアウト訓練を通して防火、防災の意識向上を図る。 				
健康教育	健康状態を把握し自己管理できる生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会の活動を通して健康意識の向上を図る。 ・保健だよりを月1回発行し、健康意識を高める。 				
	新体カテスト、体育大会、長距離走大会の安全な運営を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・体育委員会の活動を通して各大会の円滑な運営を図る。特に、体育大会については、人員の差、男女比の差を考慮に入れて、「満足した」「おおむね満足した」が80%以上になるよう工夫・努力をする。 				
人権教育	人権に関する知的理解と人権意識、感覚の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進委員会、人権相談部会を定期的に関催し、共通理解のもとに活動を進める。 ・人権HR・講演会等を通じて人権問題に対する意識の向上を図る。 ・全学年に人権作文を夏休みの課題とする。 ・共生社会の形成に向けてインクルーシブ教育を推進する。 				
	生徒の交流を充実させ、共に生き、共に育つなかま集団づくりの取組を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良養護学校との交流会を実施する。 ・高等養護学校分教室との交流を学校行事を通じて行う。 ・音楽科、コーラス部及び生徒会交流委員会と連携し、交流会を実施する。 				

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
教育相談・特別支援教育	教育相談及び特別支援教育を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の様々な課題に対して各方面で活発に相談活動が行われるよう取り組む。その際、スクールカウンセラーと連携し、助言を得ながら、主体的に活動する。 教育相談・特別支援教育に対する知識理解を深めるための職員研修会を開催する。 特別支援教育推進委員会を定期的開催の中で、さらに生徒理解を深める。 ピアサポーターとの連携を深め、生徒理解に活用するためにピアサポーターとの連絡会議を実施する。 				
広報活動	広報活動を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 高円芸術高校開校に向け、各種メディアを利用した広報活動を行う。 4科合同オープンスクールを2回開催し、中学生等への積極的な情報提供とアピールを行う。 				
育友会・同窓会活動	保護者との意思疎通の向上と同窓会活動の円滑化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 育友会学級役員と連携して学校行事推進を図る。 同窓会の諸活動と役員会の運営に関しての工夫を実施する。 				
第1学年	基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみ、挨拶、言葉遣いの指導を徹底する。 遅刻・早退・保健室利用者の人数の減少に努める(各学期5回以上の遅刻者を全体の5%以内に)。 ルールや期限を厳に指導し、特別な指導を要する生徒の人数を年間で学年生徒数の1%以内を目指す。 携帯電話・スマートフォンやSNSの使い方のマナーや危険性についての指導を徹底する。 				
	家庭学習の習慣付けを行い、基礎学力の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 「下学上達」に積極的に取り組み、学習習慣の定着とともに知的好奇心と基礎学力の向上を図る。 教科担当と連携を図りながら理解不足の状況を把握し、補習などを実施する。 提出課題を把握して全員提出を呼びかけ、提出物の期限厳守を徹底させる。 				
	社会性の向上と集団行動に対する意識の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> さわやかに挨拶ができる集団を目指す。 学校行事・HR活動・部活動に積極的に参加させることで、なかまづくりや他の生徒を尊重する態度・意識をもたせる。 行事などを通して他者と協力をしながら、迅速な集団行動を意識させ身に付けさせる。 				
	学校運営の効率化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 事前に資料を配付し、検討課題を提示することで、学年会議、学年研修の時間短縮を目指す。 SchoolWare(校内電子掲示板)やG Suiteを活用して、クラス間、学年教員間の連絡の効率化を図る。 				

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
第2学年	基本的な生活習慣を身に付けさせ、規範意識を向上させる。特に、時間を厳守する態度を育てる。	・遅刻・早退・保健室利用者の人数の減少に努める(年間の20回以上の遅刻者を全体の5%以内に)。 ・服装・頭髪等を正すなど、高校生としての自覚を促す指導を徹底し、集団行動の中で規則や規範の重要性を実感させる(特別指導を要する生徒の人数を年間で学年生徒数の1%以内を目指す)。				
	基礎学力の向上のため、課題提出の厳守と家庭学習の習慣化を図る。	・教科担当と連携を密に取り、生徒のつまずきに早期に対応し、基礎学力の定着を図る。また、課題の提出を全生徒に厳格に守らせるように徹底する(期限厳守、提出率100%を目標とする)。				
	社会性の獲得を目指す。	・学校行事や学級活動、部活動など様々な機会を通して、自己を表現する力や他の生徒とのコミュニケーションをとる力を身に付けさせる。また、全生徒が自発的に気持ちのよい挨拶ができる集団を目指すし、学校評価アンケートで80%以上の好回答を目指す。				
	学年運営の効率化を図る。	・学年会議、学年研修の時間短縮を目指し、前もって資料の配付、検討課題を提示する。 ・SchoolWare(校内電子掲示板)やG Suiteを活用して、クラス間、学年教員間の連絡の効率化を図る。				
第3学年	基本的な生活習慣の更なる確立と実践を図るとともに、規範意識を一層向上させる。	・遅刻者の減少に努める。(1学期5回以内・年間15回以内を目安とし、特別な遅刻指導を要する生徒の人数を年間で学年生徒数の5%以内を目指す)。 ・服装・頭髪等を正すなど、最高学年としての自覚を促す指導を徹底し、集団行動の中で規則や規範の重要性を実感させる。(特別指導を要する生徒の人数を年間で学年生徒数の1%以内を目指す)。				
	社会性の獲得を目指す。	・学校行事や部活動といった様々な機会ですべての人と関わることを通して、自己表現力・コミュニケーション能力の獲得を目指す。				
	進路実現に向けた取り組みを通して、生徒の自律的な行動を引き出す。	・実力養成講座、各種ガイダンス、面接・小論文指導などを通して、自己の進路実現に向けた意識・意欲を高める指導を徹底し、個々の自己管理能力の伸長を目指す。				
	学年運営の効率化を図る。	・日常的な対面での打ち合わせを主としながらも、SchoolWare(校内電子掲示板)やG Suiteを利用し、時間や場所にとられない情報共有を進める。 ・会議や研修については、事前事後の情報共有を徹底し、実際に集まった打ち合わせにかかる時間を短縮する。				